サイエンスラボ・リピーターの声

『孫に昔懐かしい伝統文化を経験させたい』

孫と私は、相馬市から参加させていただいております。参加のきっかけは孫に田舎の昔懐かしい伝統文化を経験させてやりたいと思ったからです。田植え、羽釜でのご飯炊き、昔ながらの火起こしなど、いろいろな経験をさせて頂き、孫は教科の理科や社会が大好きになったようです。また、神奈川県川崎市など遠くからの友達も出来たようで、南相馬サイエンスラボのイベントに参加させて本当に良かったなと思っております。これからもイベントごとに是非参加させて頂きたいと思います。はかせやスタッフの皆様に感謝申し上げます。

佐藤さん（相馬市 賛助会員）

『田植えをやってみよう！に参加して』

サイエンスラボでは様々な体験をすることができます。お米をテーマに、ドロだらけになりながら田植えを体験し、秋になれば鎌をつかって稲刈りをします。収穫したお米は羽釜で炊飯もします。体験ばかりではなく、米一粒から二千粒のお米が収穫できることや稲作の歴史も学習します。勉強嫌いな息子が理科や社会を好きになったのはサイエンスラボのおかげだと思います。これからも子供たちの興味の引き出しを増やしてくれることを期待しています。

佐藤さん（原町区 賛助会員）

『田植えをやってみよう！に参加して』

昨年、田植えと稲刈りに参加させて頂き、今年も田植えに参加しました。これまで、毎日田んぼの真ん中で生活していても、子どもたちに田植えや稲刈りを経験させてあげることは出来ませんでした。今となっては手植えを体験する機会も少なくなり、子どもたちが泥にまみれながら田植えする様子を見て私も嬉しく思いました。手刈りによる稲刈りや“はせがけ”など、子どもたちが将来、親になった時もそうした経験を自分の子どもに伝えていって欲しいと思います。

鈴木さん（原町区）

『田植えをやってみよう！に参加して』

南相馬市は自然が多いと思いますが、実際に触れて体験するとなると難しいものです。毎日見ている田んぼですが、入ってみないと分からない土の感触でした。

親子でサイエンスラボのイベントに参加して子供達の感覚や表現が広がりました。机の上の勉強だけでなく、立体的な学習を通して学ぶ楽しさを伝えていただきいつも感謝しております。

鈴木さん（原町区 賛助会員）

『遊びを通した科学を学んで欲しい』

子どもたちに遊びを通した科学を学んで欲しい、農作業を通して食べ物の大切さを理解して欲しいと思い、毎回の様にサイエンスラボのイベントに参加しております。それぞれのイベントに、専門家の先生を招いて下さったり、専用の道具なども準備して頂いたりと、まさに中身の濃い時間を過ごすことができます。子どもたちには、サイエンスラボのイベントに参加することを通して、教科書ベースの知識詰め込み型ではなく、世の中の仕組みや物事の関わり合いを理解出来る大人になって欲しいと願っています。

Ｓさん（相馬市 賛助会員）

『生きる力を育むことが出来る場所』

我が家には三姉妹の子どもがいます。子ども達は日頃、身近なものに対して、沢山の疑問を持っています。長女は「サイエンスラボは学校では教えてくれないこと、出来ないことを教えてくれるので、とても楽しい」と話しています。核家族化に伴い、家庭で出来ないことを南相馬サイエンスラボのイベントでは体験できます。科学的な知識とともに、実際に見て触れて考えることで､より理解を深めることが出来ます。まさに「生きる力」を育むことのできる場所です。変わりゆく時代の中で、これから育っていく子ども達のために、大切なことを学ぶことが出来る場所があることに心から感謝しています。

高野さん（相馬市）

南相馬サイエンスラボ
周辺地図

＜NPO 法人南相馬サイエンスラボ 沿革＞

平成 26 年	4 月	任意団体として設立
平成 26 年	5 月	第１回親子科学実験教室
平成 26 年	11 月	第１回親子農業食育教室
平成 27 年	7 月	SAVE JAPAN プロジェクト
平成 28 年	8 月	NPO 法人化
平成 28 年	11 月	JST 賞受賞
平成 30 年	5 月	親子歴史文化たんけん教室開始
平成 30 年	9 月	南相馬市の偉人に署名活動
平成 31 年	4 月	賛助会員募集開始

〒975-0002 福島県南相馬市原町区東町 2-50　特定非営利活動法人南相馬サイエンスラボ　齋藤 実
TEL/FAX 0244-26-6286　携帯 080-3340-8426　電子メール sciencelabo2011@gmail.com
ホームページ　http://www.sciencelabo2011.com

自然科学・農業食育・環境保護・歴史文化等の体験教育活動を支援します

特定非営利活動法人

MSL 南相馬サイエンスラボ

Non Profit Organization Minamisoma Science Labo

出前授業・夏休み自由研究などご相談ください。

正会員・賛助会員募集中です。
（会員はイベント参加費が無料になります）

入会案内→

MSL 入会案内

震災前、高度経済成長やバブル崩壊などを経た全国の地方都市には、社会・経済・産業・医療・エネルギー・教育など、様々な共通の問題がありました（図1）。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、南相馬市ではそうした全国共通の問題に加えて、家屋の倒壊や津波被害、そして福島第一原子力発電所の事故による原子力災害を受けてしまいました（図2）。

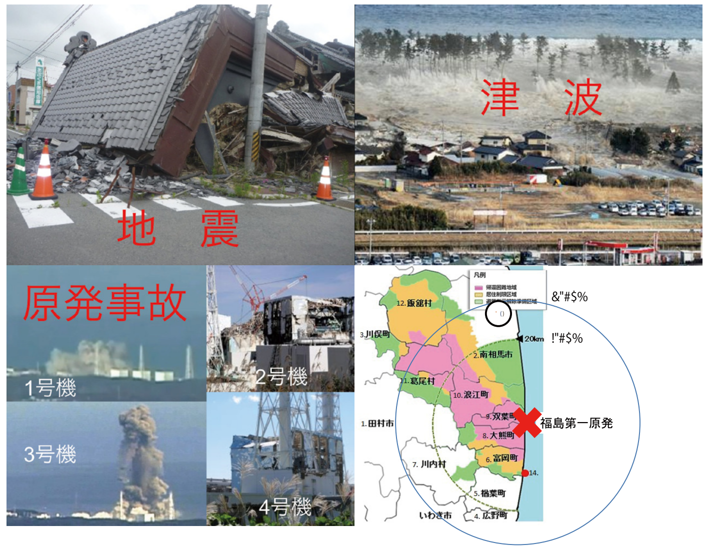

図2　東日本大震災と原発事故

社会・経済・産業
食料・健康・医療
エネルギー・教育

図1　全国の地方都市共通の問題

私たちは震災後、もし、あの様な状態が今後も長く続くのだとしたら、この町の子どもたちは、人間形成に最も重要だとされる幼い頃の自然体験や感動体験が無いまま成長し、その結果として、ふるさとへの愛情や、夢に挑戦しようという心を持てない人間になってしまうのではないかと考えました。

そこで私たちは南相馬サイエンスラボという団体を作り「身の回りのものすべてが学びの対象」という科学の考え方に基づいて、行政や市民団体や町の専門家のみなさんといっしょになって、学校では学ぶことが難しい自然科学・農業食育・環境保護・歴史文化といった4つの分野の地域資源を活かした体験教育活動（地域教育）を続けています。（図3）。

田植え（5月）　縄文体験（5月）　報徳仕法（6月）　地域教育（6月）
羽根田彗星（9月）　ポニー乗馬（9月）　只見町（9月）　稲刈り（10月）
武山家住宅（10月）　血液って？（11月）　ご飯炊き（11月）　はちみつ（12月）

図3　平成30年度の体験教育活動

私たちは将来にわたって地方都市が輝き続けるためには、教育において学校と地域がお互いに不足する部分を補い合うことが欠かせないと考えており、この町にそうした地域教育に取り組む団体や個人が集まって学校教育を下支えする「地域教育プラットフォーム」を作りたいと考えています。（図4）。

当法人のこれまでのこうした活動は科学技術振興機構が主催する日本最大の科学イベントであるサイエンスアゴラ2016において最高賞であるJST賞を受賞するなど、全国でも高い評価を受けています（図5）。

図5　JST賞授賞式

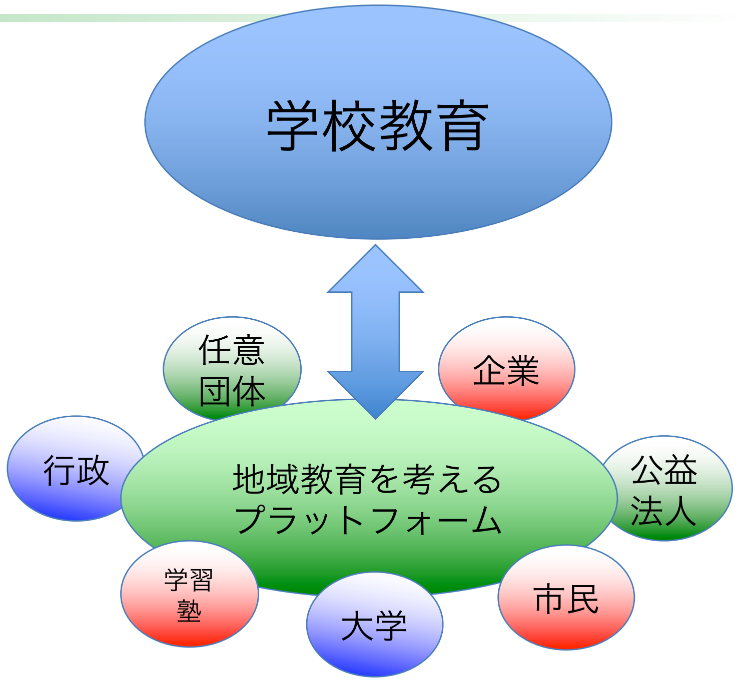

図4 地域教育プラットフォーム

私たちは今後もこうした活動を継続し、将来、南相馬市に地域教育を中心とした「地域資源を活かした新しい学校」を作り、ふるさとを愛する子どもたちを多く育てていきたいと考えています（図6）。

今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

図6　地域資源を活かした新しい学校構想

はかせ（齋藤　実：昭和46年生）

福島高校卒、埼玉大学大学院博士課程修了（理学博士）、高校理科教員免許・上級バイオ技術者・ふくしま食育実践サポーター、特定非営利活動法人法人南相馬サイエンスラボ理事長、こども科学実験教室（個人学習塾）代表、先祖は中村藩勘定奉行紺野文太左衛門。

令和元年度事業予定　● 自然科学　● 農業食育　● 環境保護　● 歴史文化　● 地域教育

- ● 田植えをやってみよう（5/12）
- ● 相馬野馬追ってなんだろう？（6/9）
- ● 地域教育を考える勉強会（6/30）
- ●● 羽根田カンポス彗星（8/31）
- ● ポニー乗馬体験（9/1）
- ● 稲刈りをやってみよう！（10/6）
- ● 縄文体験をやってみよう！（11/17）
- ● 報徳仕法と真宗移民（12/1）